

1 a 念
b 構成
c 転化

2 照らし合わせたり
3 目の前のモノ

4 イ 知識とすため
6 A イ B エ C ア

7 I 人が何
II (記述題)
8 I 思考
II 情報収集 (完答)

8 III 知識
IV 情報加工力 (順不同・完答)

2 a 意図
b 機会
c 張る

2 A 歯 B 間 C うま D ぶ
3 クラスの男

4 いとこ
5 (記述題)
6 息子のすがない (完答)

7 (記述題)
8 ウ
9 エ
10 イ・ウ (順不同)

1 「感じる」のみが情報と知識の意識的な加工プロセスがなく、残りの二つのうち、「思考」の方が「思う」に比べてより能動的であるということ。
(同意可)

2 5 自分の意志をつらぬこうとする性
(同意可)

7 将棋ができることを言わないということ。
(同意可)

	【配点】	
その他	1 7	1 13
	2 5	2 26
	1 14	1 18
	1 56	1 26

1 a 「念」は上半分は「令」ではなく「今」である。b 「構成」の「構」には「組み立てる」「仕組み」という意味がある。「述べる」「解き明かす」という意味を持つ「講」としつかり書き分けよう。c 「転化」は変化して別の状態になること。別の同音異義語を書いてはいけない。

2 ①を含む一文から、「思考」について定義しているところからさがせばよいと見当がつけられるだろう。本文中で「思考とは…である」「…が思考である」といった何度も出てきた言いかえ表現を通読の際におさえながら読み進めておきたい。

3 指示語の問題を解く際は、いきなり——線部の前を見てさがすのではなく、後を読んでから考えよう。——線②を含む一文から、「目の前のモノについての情報」にあたる内容が答えになるだろうと推測できる。そのうえで直前の一文を見て条件に合うことばをぬき出そう。

4 ③を含む段落の直前の段落に書かれている、情報と知識が符合した場合「それは○だ」、だいたい同じ場合は「それは○だろう」「それは○かもしれない」をふまえて考える必要がある。「全く符合しない場合」はそもそも「○○」というキーワードすら出てこないはずである。よって、「何だか分からない」が答えとなる。

5 ④を含む段落で、「それが何か」を分かるための手段/能力として「情報収集」があると書かれているので、本文のここより後から「ちなみに、思考以外で…」の段落の手前までの範囲でさがせばよいとわかる。

6 【A】の後では「情報収集」の具体例がそれぞれ述べられているので、【A】には並列のはたらきを持つ「また」がはいる。【B】の前の「情報が多い方が答え/意味合いを導きやすい」ということを【B】の後で具体例を挙げて説明していることから、ここには例示のはたらきを持つ「たとえば」がはいる。【C】の前では「思考」と「思う」の共通性について、後では相違点について述べられているので、【C】には対比のはたらきを持つ「一方」がはいる。

7 I ⑤を含む段落は直前の段落の補足となっている。——線⑤を含む段落の内容をふまえた上で直前の段落に注目しよう。——線⑤を含む段落で「思考」と「思う」の共通性が「…意味合いが浮かんできるという点」だと述べられており、直前の段落に「思考以外で人が何らかの意味合いを得る手段としては『感じる』ということもある」とあるので、これが三つの共通点だと言える。

II 「ちなみに…」の段落に「『感じる』には情報と知識の意識的な加工プロセスが無い」とあり、次の段落に「『思考』と『思う』には…情報と知識・経験とを照らし合わせる・繋ぎ合わせるプロセスを経て」とあるので、これが「感じる」と「思考/思う」の違いである。さらに、【C】の段落に「『思考』と『思う』の相違点は…」とあるので、ここにも注目してうまくまとめよう。

8 頭の中で設問の図のように組み立てながら本文を読み進めていくことが大切である。特に「このように『それが何か』を分かる能力、すなわち思考力は…二つのファクターでコウセイされているのである」「そして、実は『それが何か』を分かるための手段/能力には…『情報収集』である」「以上のように…三つの力がものを分かる能力をコウセイするのである」という部分でわかりやすく述べられている。

② a 「意図」は考えていること、思わく。b 「機会」は「機」の右半分を特に丁寧に書く。c 「張」の「弓」はつづけて一面で書いてはいけない。三画で書く。

2 それぞれ文脈に沿った表現にしなければならない。Aの「歯が立たない」は敵わないこと。Bの「間が悪い」はタイミングや運が悪いくこと。Cの「うまが合わない」は気が合わないこと。Dの「いぶかる」は疑わしく思うこと。

3 父親の兄の家ではじめて見て気になったのではなく、もともと気になっていたのである。答えにあたる文の直後の「はやらせたのは…」という一文では「将棋が気になる」理由になっていない。

4 葉子にとって拓己は、父の兄の息子にあたる人物である。間柄を表す言い方は登場人物の関係性を正確に把握する上でもきちんとおさえておきたい。

5 「さすが」は「さすがのくも」という形で、そのものの価値を認めはするが特定の条件下ではそれを否定するさまを表す。——線③の直後も含めて考えると、葉子は普段であればやりたいことははっきりやりたいと言いたすタイプであることが読み取れる。設問に「本文全体をふまえて」とあるので、「将棋をやりたがる」など具体的に答えるのではなく、一般化させて答えよう。

6 第一家が年始の挨拶に来るといふのにわざわざ居間のテーブルの上に将棋盤と駒を置いているのである。拓己の将棋に関する話題をふくらませるためである。

7 「目配せしようとしたが」、葉子が微塵の悪意もなく「ずっと将棋を指してる」「将棋教室にも通ってる」「わたしは、12月に三段になったばかり」と言ってしまった、これを「すでおそかった」と表現しているのである。つまり、これらの将棋に関する発言をしないう牽制しようとしたが、うまくいかなかったということである。

8 ⑥の直後の「葉子もあやまりなさい」から、直前の葉子の発言内容についてあやまっていることが読み取れる。葉子が三段になったという事実そのものに対してではなく、その事実を告げたことにより葉子より2歳上で、かつ、先に将棋を始めた拓己の面目をつぶしてしまったことに対してあやまっているのである。

9 葉子が小学3年生の時に行った年始の挨拶の際の義姉のうれしそうな様子や満足げな様子から、息子の将棋の腕前を誇らしく思っていることが読み取れる。2年ぶりの「今年のお正月」でも息子の将棋の腕前を自慢しようとしていたところ、思わぬ反撃に遭ってしまった面目をつぶされたのである。自分の息子より腕前が上の娘を持つ悦子にあやまられるということは、義姉からすれば「うちの娘の方が優秀でごめんなさい」と言われたのと同然なのである。

10 文章後半の「娘が将棋に打ち込んでいることにも、きつと慣れてゆけるはずだ」や「しかし、将棋の戦法や…まるでわからないままだった」という表現から、自分の知らない将棋の世界でこれから活躍していくかもしれない娘に対してさみしさを感じていることが読み取れる。オは「ないがしろ」という表現が言い過ぎなのでふさわしくない。また、同じく文章後半の「これが料理や裁縫なら…わかるだろう」や文章中盤の「葉子と同じ歳の茜ちゃんも、すっかり女の子らしくなっている」からの三文に注目すると、女の子らしい娘を持つことへのあこがれが読み取れるだろう。